

【別紙】

経営規模要件の特例に係る別途基準の設定事例(都府県の場合)

地域	中山間地域	物理的制約に応じた特例						生産調整に応じた特例(集落営農)						所得に応じた特例		
		(認定農業者：基本原則(4ha)×格差率(概ね8割(64%)を下限) 集落営農：基本原則(20ha)×格差率(概ね8割(中山間地域は5割)を下限))						(地域の生産調整面積の過半を受託する集落営農： 基本原則(20ha)×生産調整率(7haを下限) 中山間地域の場合：基本原則(20ha)×生産調整率×5/8(4haを下限))								
		地域の1集落あたりの田畑の平均面積	全国平均の1集落あたりの田畑の面積	格差率		特例基準		備考	市町村の田面積	水稲作付面積	生産調整面積	市町村の生産調整率	中山間地域補正		特例基準	備考
		集落営農	認定農業者	集落営農	認定農業者											
A市		40ha	25ha	—	—	特例なし (20.0ha)	特例なし (4.0ha)	格差が存在しない地域は基本原則のまま	400ha	160ha	240ha	60.00%		12.0ha	20ha×60.0% =12.0ha	〇〇〇万円
B市		30ha	25ha	—	—	特例なし (20.0ha)	特例なし (4.0ha)	〃	300ha	150ha	150ha	50.00%		10.0ha	20ha×50.0% =10.0ha	〇〇〇万円
C市		20ha	25ha	80.00%	80.00%	16.0ha	3.2ha	20ha×80.0% =16.0ha 4ha×80.0% =3.2ha	300ha	200ha	100ha	33.33%		7.0ha (下限)	・7haが下限 20ha×33.3% =6.7ha→7.0ha	〇〇〇万円
D町	○	20ha	25ha	80.00%	80.00%	16.0ha	3.2ha	20ha×80.0% =16.0ha 4ha×80.0% =3.2ha	100ha	50ha	50ha	50.00%	5/8	6.3ha	20ha×50.0%× 5/8=6.3ha	〇〇〇万円
E市 (a地域)		18ha	25ha	72.00%	72.00%	14.4ha	2.9ha	20ha×72.0% =14.4ha 4ha×72.0% =2.9ha	200ha	120ha	80ha	40.00%		8.0ha	20ha×40.0% =8.0ha	〇〇〇万円
E市 (b地域)	○	15ha	25ha	60.00%	64.00% (下限)	12.0ha	2.6ha	・認定農業者は 64%が下限 4ha×64.0% =2.6ha	200ha	120ha	80ha	40.00%	5/8	5.0ha	20ha×40.0%× 5/8=5.0ha	〇〇〇万円
F村	○	12ha	25ha	50.00% (下限)	64.00% (下限)	10.0ha	2.6ha	・中山間地域に つき集落営農 は50%が下限 20ha×50.0% =10ha	150ha	110ha	40ha	26.67%	5/8	4.0ha (下限)	・中山間地域は 4haが下限 20ha×26.67% ×5/8=3.33ha →4.0ha	〇〇〇万円

※ 市町村単位を基本として整理

※ E市は、旧市町村単位でb地域が中山間地域となっているため、a地域とb地域を区分して算定